

授業科目 解剖学実習Ⅰ

【担当教員名】 西野 幾子、山口 康昭		対象学年	1	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：GI0】 人体の正常な構造と機能を理解するために人体模型や組織を観察し、それらを理解する。 交連骨格標本、分離骨標本を用いて、人体、特に骨格系を立体的に理解する。 口腔・咽頭・喉頭模型、平行聴覚器模型などを用いて、人体、特に発声発語器官、聴覚器官を理解する。 人体組織、特に喉頭、コルチ器の微細構造を光学顕微鏡的に観察し、それらを理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 全身、特に頭部の個々の骨を見分け、身体のどこにどのような方向に位置しているかを説明できる。 2. 頭頸部の筋を観察・スケッチし、それらの名称、簡単な機能を説明できる。 3. 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の各構成成分を模型上で指示し、説明できる。 4. 外耳・中耳・内耳の構成を模型上で説明できる。 5. コルチ器、喉頭の微細構造を理解し、その特徴を概説できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	解剖学実習Ⅰの概要とオリエンテーション				実習
2	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			1	実習
3	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			1	実習
4	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			1	実習
5	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			1	実習
6	骨学実習：交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ			1	実習
7	筋学実習：人体模型による頭頸部の筋の観察とスケッチ			2	実習
8	発声発語器官模型実習：鼻腔／喉頭、舌／喉頭模型の観察とスケッチ			3	実習
9	発声発語器官模型実習：鼻腔／喉頭、舌／喉頭模型の観察とスケッチ			3	実習
10	平行聴覚器模型実習：外耳・中耳・内耳模型、耳小骨の観察とスケッチ			4	実習
11	平行聴覚器模型実習：外耳・中耳・内耳模型、耳小骨の観察とスケッチ			4	実習
12	組織学実習2：コルチ器・喉頭の組織標本の観察とスケッチ			5	実習
13	組織学実習2：コルチ器・喉頭の組織標本の観察とスケッチ			5	実習
14	組織学実習2：コルチ器・喉頭の組織標本の観察とスケッチ			5	実習
15	組織学実習2：コルチ器・喉頭の組織標本の観察とスケッチ			5	実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		入門人体解剖学	藤田恒夫	南江堂	2000・5,000円
参考書		線描 骨学実習	千葉正司	考古堂	2001・3,500円
その他の資料		実習書の配布			
【評価方法】 実習態度、出席状況、スケッチブック、筆記試験の総合評価			【履修上の留意点】 実習室では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。 スケッチブック（指定）と色鉛筆が必要。 実習はやり直しができないので、欠席をしないこと。		